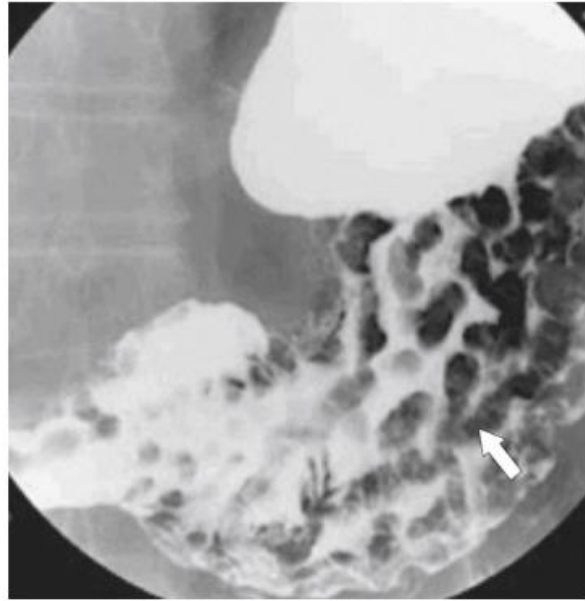


# メネトリ工病とは

## ● メネトリ工病とは？

胃の巨大皺襞(すうへき；ひだ)と低蛋白血症を特徴とした病気で、過形成性(かけいせいせい)胃炎と呼ばれることもあります。低蛋白血症は、胃の粘膜から血液中の蛋白がもれ出ることで起こります(蛋白漏出性胃腸症)。





**メネトリ工病**になった患者の約 10%が胃がんを併発するといわれています。また胃潰瘍、ポリープなどの合併も示唆されています。

## ● メネトリエ病の原因は？

原因は明らかではありませんが、成人ではヘリコバクター・ピロリ、小児ではサイトメガロウイルスとの関連が指摘されています。



## ● メネトリ工病の症状は？

主に上腹部痛や嘔吐、下痢、食欲低下、体重減少などが現れます。進行すると、低蛋白血症のために貧血や浮腫（むくみ）がみられるようになり、疲れやすい、全身がむくむなどの症状が出てきます。



## ● メネトリエ病の診断は？

胃内視鏡検査の時に生検を行うと、胃粘膜の被蓋(ひがい)上皮細胞の過形成とともに、固有胃腺の萎縮が認められます。

胃がんや胃悪性リンパ腫など、悪性の病気を除外することも重要です。



## ● メネトリエ病の治療は？

ヘリコバクター・ピロリやサイトメガロウイルスの感染が証明されれば、それぞれの治療を行います。

低蛋白血症に対しては、高蛋白食を数回に分けて摂取するようにします。

